

平成28年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年8月7日

上場会社名 株式会社 アイフリーク モバイル
 コード番号 3845 URL <http://www.ifreek.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役兼管理グループ長
 四半期報告書提出予定日 平成27年8月14日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(氏名) 谷内 進
 (氏名) 紀伊 克彦

TEL 092-471-5211

上場取引所 東

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年3月期第1四半期の連結業績(平成27年4月1日～平成27年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第1四半期	156	△57.3	△0	—	3	—	2	—
27年3月期第1四半期	367	△12.2	△0	—	0	—	△4	—

(注) 包括利益 28年3月期第1四半期 4百万円 (—%) 27年3月期第1四半期 △3百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年3月期第1四半期	0.24	0.23
27年3月期第1四半期	△0.39	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	円 銭	百万円	円 銭	%	円 銭
28年3月期第1四半期	604	7.41	89	14.4		7.41
27年3月期	720	6.84	82	11.1		6.84

(参考) 自己資本 28年3月期第1四半期 87百万円 27年3月期 80百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
28年3月期	—	—	—	—	—
28年3月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成28年3月期の連結業績予想(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
通期	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

平成27年7月1日付けで当社の連結子会社でありました株式会社アイフリーク モバイルを吸収合併したことにより、平成28年3月期第2四半期決算より非連結決算へ移行いたします。なお、当社は平成27年7月1日付けにて、株式会社アイフリーク ホールディングスから株式会社アイフリーク モバイルへと商号変更しております。
 平成28年3月期の連結業績予想は非連結決算へ移行するため記載しておりません。また、平成28年3月期の個別業績予想につきましては現在精査中であり、業績見通しが判明次第速やかに公表いたします。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	28年3月期1Q	11,763,600 株	27年3月期	11,737,500 株
② 期末自己株式数	28年3月期1Q	300 株	27年3月期	300 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	28年3月期1Q	11,738,805 株	27年3月期1Q	11,222,386 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表の四半期レビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる過程及び業績予想のご利用に当たっては、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	5
4. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用情勢の改善に加え、消費税増税の影響一巡等により、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。

当社グループ（当社及び連結子会社）の関連するモバイルコンテンツ業界におきましては、携帯電話利用者のフィーチャーフォンからスマートフォン（以下「SP」という。）への端末変更がより一層進み、タブレット端末の利用者もモバイルキャリア各社の積極的な販促活動によって増加した結果、SP及びタブレット端末（以下「スマートデバイス」という。）の利用者は増加傾向にあります。これらの要因により、インターネットサービス及びアプリケーションの利用、電子書籍の閲覧等、スマートデバイスによるコンテンツ利用シーンは更に拡大しております。

このような経営環境のもと、当社グループは、モバイルコンテンツ事業の継続的な成長と周辺事業の育成を進めてまいりました。

コミュニケーションコンテンツ領域（『デココレ』、『photodeco+』等）におきましては、ユーザーの継続利用を促進するため、使いやすいユーザーインターフェースへの改善と追加機能の拡充、スタンプ画像の掲載等、引き続きスマートデバイスでのサービス強化を進めてまいりました。

ファミリーコンテンツサービス領域（『森のえほん館』等）におきましては、『森のえほん館』がいつでも、どこでも、好きなだけ読める、定額制ならではの利点が支持され、100万ダウンロードを達成いたしました。これを記念して、『森のえほん館』のマスコットキャラクター「リストくん」のLINEスタンプの発売と「リストくん」を題材にした絵本「リストくんとレントさんのほんだな」の配信を『森のえほん館』にて開始いたしました。

周辺事業の育成におきましては、5周年を迎える「Pictbox」を全面リニューアルし、絵本以外にイラスト、スタンプ、マンガ、写真ジャンルの作品も発表できるようになり、更にクリエイターの“創る”を応援する体制を整えてまいりました。また、『デココレ』で人気のキャラクター「黒田さん」を使ったLINEクリエイターズスタンプ「黒田さんの殴り書き」の発売等、クリエイティブな開発力を生かし、豊富な素材を有効に利用するためにスタンプ画像制作の取組みを開始いたしました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は156,599千円（前年同期比57.3%減）、営業損失は22千円（前年同期は31千円の営業損失）、経常利益は3,629千円（前年同期は147千円の経常利益）、親会社株主に帰属する四半期純利益は2,782千円（前年同期は4,359千円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

なお、当第1四半期連結会計期間から、当社グループは単一セグメントに変更したため、セグメント別の記載を省略しております。

（注）製品名及びサービス名は商標又は登録商標です。

(2) 財政状態に関する説明

①資産の状況

流動資産は、前連結会計年度末に比べて90,627千円（14.8%）減少し、522,580千円となりました。これは主として、現金及び預金が46,880千円、売掛金が31,308千円、その他流動資産が12,328千円減少したことによるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて24,910千円（24.2%）減少し、78,167千円となりました。これは主として、有形固定資産が1,588千円、無形固定資産が2,955千円、投資その他の資産が20,365千円減少したことによるものであります。

繰延資産は、前連結会計年度末に比べて485千円（12.5%）減少し、3,401千円となりました。

以上の結果、総資産は、前連結会計年度末に比べて116,023千円（16.1%）減少し、604,149千円となりました。

②負債の状況

流動負債は、前連結会計年度末に比べて110,454千円（26.5%）減少し、306,400千円となりました。これは主として、1年内返済予定の長期借入金が1,040千円増加したものの、買掛金が1,204千円、短期借入金が93,000千円減少したことによるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて12,087千円（5.5%）減少し、208,704千円となりました。これは主として、長期借入金10,988千円減少したことによるものであります。

以上の結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて122,542千円（19.2%）減少し、515,105千円となりました。

③純資産の状況

純資産は、前連結会計年度末に比べて6,518千円（7.9%）増加し、89,043千円となりました。これは主として、新株予約権の行使により資本金及び資本剰余金が2,775千円増加し、親会社株主に帰属する四半期純利益を2,782千円計上したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成27年7月1日付けで当社の連結子会社でありました株式会社アイフリーク モバイルを吸収合併したことにより、平成28年3月期第2四半期決算より非連結決算へ移行いたします。なお、当社は平成27年7月1日付けにて、株式会社アイフリーク ホールディングスから株式会社アイフリーク モバイルへと商号変更しております。

平成28年3月期の連結業績予想は非連結決算へ移行するため記載しておりません。また、平成28年3月期の個別業績予想につきましては現在精査中であり、業績見通しが判明次第速やかに公表いたします。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
(企業結合に関する会計基準等の適用)

「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成25年9月13日）、「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第22号 平成25年9月13日）及び「事業分離等に関する会計基準」（企業会計基準第7号 平成25年9月13日）等を当第1四半期連結会計期間から適用し、四半期純利益等の表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第1四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、前連結会計年度において、スマートデバイスのサービス強化及び企業向け電子絵本商品のメニュー強化、不採算事業からの撤退や徹底した固定費の削減施策を行い、グループ内の各事業部門の選択と集中をより強く推進し、経営資源をモバイルコンテンツ事業へ集約する体制の整備と財務基盤の強化を図りました。

これらの施策が功を奏し、前連結会計年度において、営業利益及び経常利益を計上しております。しかしながら、営業キャッシュ・フローは継続してマイナスを計上しており、収益力が安定したと判断するのは時期尚早であることから、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在していると判断しております。

この改善策といたしまして、当連結会計年度におきましては、平成27年7月1日に当社グループの売上高を構成するモバイルコンテンツ事業を営む株式会社アイフリーク モバイルを吸収合併し、従来の「純粋持株会社体制」から「事業会社体制」に移行することにより、昨今の経済情勢の変化に対応するとともに、より一層のお客様視点に立った経営及び経営の一層の効率化を進めております。また、モバイルコンテンツ事業の中核であります『デココレ』『photodeco+』等のコミュニケーションコンテンツ領域及び『森のえほん館』等のファミリーコンテンツサービス領域の一層のサービス強化により、営業利益の確保及び営業キャッシュ・フローの更なる改善を見込んでおります。

事業資金面につきましても、引き続き取引金融機関と良好な関係にあり、当面の事業資金の確保はなされていることから、少なくとも今後1年間の資金繰りに重大な支障をきたすような状況にはありません。

以上のことから、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しておりますが、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断し、「継続企業の前提に関する注記」の記載には至りませんでした。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	421,774	374,894
売掛金	152,244	120,936
有価証券	14	14
仕掛品	-	51
その他	39,704	27,375
貸倒引当金	△531	△692
流動資産合計	613,207	522,580
固定資産		
有形固定資産	20,698	19,109
無形固定資産	17,992	15,037
投資その他の資産	64,386	44,020
固定資産合計	103,078	78,167
繰延資産	3,887	3,401
資産合計	720,173	604,149
負債の部		
流動負債		
買掛金	8,252	7,048
短期借入金	300,000	207,000
1年内返済予定の長期借入金	39,792	40,832
その他	68,811	51,520
流動負債合計	416,855	306,400
固定負債		
社債	200,000	200,000
長期借入金	10,988	-
資産除去債務	5,199	5,211
その他	4,604	3,493
固定負債合計	220,792	208,704
負債合計	637,647	515,105
純資産の部		
株主資本		
資本金	652,682	654,070
資本剰余金	652,687	654,075
利益剰余金	△1,221,648	△1,218,865
自己株式	△34	△34
株主資本合計	83,686	89,244
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△3,391	△2,100
その他の包括利益累計額合計	△3,391	△2,100
新株予約権	2,230	1,899
純資産合計	82,525	89,043
負債純資産合計	720,173	604,149

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)
売上高	367,152	156,599
売上原価	193,275	56,382
売上総利益	173,876	100,216
販売費及び一般管理費	173,907	100,238
営業損失(△)	△31	△22
営業外収益		
受取配当金	1,135	53
貸倒引当金戻入額	2,586	1,245
その他	241	4,061
営業外収益合計	3,962	5,359
営業外費用		
支払利息	1,178	1,219
社債発行費償却	485	485
新株予約権発行費	2,000	-
その他	120	1
営業外費用合計	3,784	1,707
経常利益	147	3,629
特別利益		
新株予約権戻入益	-	220
特別利益合計	-	220
税金等調整前四半期純利益	147	3,850
法人税等	4,506	1,068
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△4,359	2,782
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△4,359	2,782

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△4,359	2,782
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	430	1,290
その他の包括利益合計	430	1,290
四半期包括利益	△3,929	4,073
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△3,929	4,073

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額(注)2
	モバイルコン テンツ事業	Eコマース 事業			
売上高					
外部顧客への売上高	256,357	110,794	367,152	-	367,152
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	256,357	110,794	367,152	-	367,152
セグメント利益又は 損失(△)	57,616	497	58,114	△58,145	△31

(注)1 セグメント利益又は損失の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年6月30日)

当社グループは「モバイルコンテンツ事業」の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(報告セグメントの変更等に関する事項)

当社グループは、従来「モバイルコンテンツ事業」、「Eコマース事業」の2事業を報告セグメントとしておりましたが、前連結会計年度において、「Eコマース事業」を営んでいた株式会社アイフリーク プロダクツ セールスの保有株式の全てを第三者に譲渡し、同事業から撤退しております。

これにより、「モバイルコンテンツ事業」の単一セグメントとなることから、当第1四半期連結累計期間のセグメント情報の記載を省略しております。